

Patient Information

| | | | |
|----|-------|-----|-------------|
| ID | ##### | 主治医 | |
| 性別 | 男性 | 検者 | XX▷○ |
| 年齢 | 63歳 | 手術日 | ##年 ##月 ##日 |

診断および術式

頭蓋咽頭腫。右前頭側頭開頭、右頬骨弓切除、腫瘍摘出術。

Comment

記録電位

ERGおよびVEP

赤字で示した箇所の明記が必須です。

記録部位（モンタージュ）

両側乳様突起部、Inionの5cm上方、5cm外側

所見

コントロールから患側の右刺激でERGおよびVEPの振幅が低下していた。健側の左は振幅も大きく不変であった。

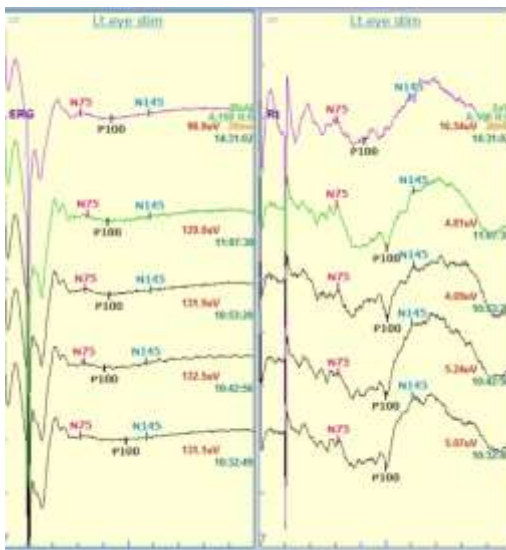
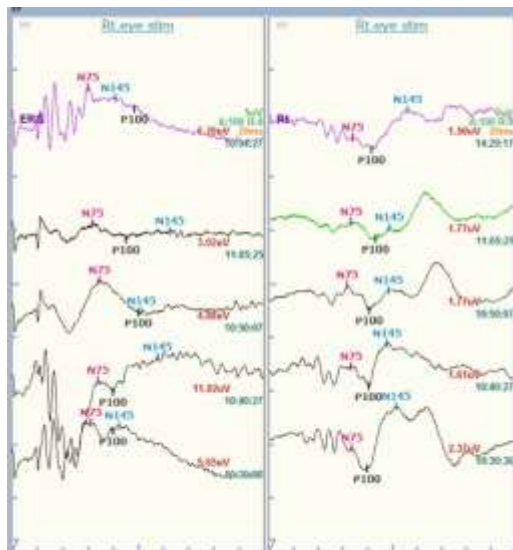
患側の右は胸骨弓切除のために前頭部の皮弁翻展が強くなり、ERGの著明な低下、VEPの振幅低下を認めたが、頬骨をはずした後に皮弁を戻すことによりERG、VEP共に回復した。VEPの振幅低下を来さない範囲で腫瘍の垂全摘を施行した。

判定

患側のVEPの軽度振幅低下。術後に視力障害は認めなかった。

ERGおよびVEP

スケールが記載された記録を提出するか、余白に明記してください。



申請者の署名（記名）が必要です。

Signature

○ × △ □